

第五十三回卒業証書授与式及び第二十五回修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第五十三回卒業証書授与式及び第二十五回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを、心から感謝し、お礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する百八十四名、専攻科を修了する三十二名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

学生の皆さんは、学校生活の中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、色々な思いが心をよぎっていることでしょう。もっと頑張ればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆さんは、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。誇りにし、自信にしてください。ただ、保護者やご家族の方々、先生方など、周りの人々の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないでください。

さて、知・徳・体、三育の全人教育を建学の精神とする鈴鹿高専には養成すべき人物像が四つあります。一つ目は、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人です。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人です。この人物像は、一生を通じ人生の様々な節目で思い出してください。

また、日々の学業に加え、海外研修や高専祭、体育大会、文化行事などの様々なイベント、そして課外活動が、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思います。また、エコカーレースやロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどの各種コンテスト、そして各種学会発表などを通じ、皆さんは素晴らしく成長されたことと思います。様々な分野で賞を受賞し、表彰を受けた人もいました。そして、それらはホームページのフォト広報に掲載されるなど、全校で喜びを分かち合うことができました。

皆さんは、これから就職、進学など多様な道を進まれます。今、日本の社会およびそれを取りまく世界が大きく変革しようとしています。その一つのキーワードがソサエティ 5.0 です。ソサエティ 5.0 は日本政府が策定した「科学技術基本計画」の中で提唱された概念で、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会です。ソサエティ 1.0 の狩猟社会、2.0 の農耕社会、3.0 の工業社会、4.0 の情報社会に続く、新たな社会をめざしており、内閣府などを中心に産業界も加わってソサエティ 5.0 を実現するために推進策の具現化が始まっています。また、関連する概念としてインダストリー4.0 がドイツで提唱されています。これは、製造業で人の知的作業や器用さを必要としていた作業を、AI と IoT 機器によって代替していく新たな産業革命で、産業のあり方を変革していくものです。

このような時代にこそ、人間の真価が問われます。人間とは何かを深く考え、その人間らしさを十分に発揮しなくてはなりません。人間は創造性を発揮することによって、存在価値をますます高めるのです。皆さん、創造力を高める努力を一生続けてください。創造力を高めるために大事なことは何でしょうか。それは孤独を恐れないことです。画家のパ

ブロ・ピカソは「大いなる孤独がなければ真剣に創作などできない」と言ったそうです。今までにない新しいものを生み出すのですから誰にも頼ることはできません。まず一人でじっくり考える、そして行動することが必要です。もちろん現代ではすべてを一人でやり遂げることは困難で、他の人たちと協力することも大切です。しかし、創造の原点は「積極的な孤独」にあることを忘れないでください。他の人たちが後からついてくることを信じて、勇気をもって、誰も見たことのない新しい世界に第一歩を踏み出してください。それが創造です。

結びにあたり、卒業、修了する皆様方が、充実した思い出深い高専生活での学びや経験を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを、また、本校が「地域に根差し、世界に羽ばたく、創造性豊かな鈴鹿高専」として、益々発展することを祈念するとともに、本日の式典にご多用にも関わらず、ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成三十一年三月十五日

鈴鹿工業高等専門学校長

吉 田 潤 一